

# 第13回 杵築市地域医療フォーラム

## 【抄録集】

### 大会テーマ

私たちはどんなまちに住み続けたいか  
～健康でつなぐ住み良い未来のまちづくり～



○開催日 2024年3月16日

○開催会場 杵築市福祉センター多目的ホール

杵築市立山香病院・杵築市

## 開催のご挨拶



杵築市立山香病院 開設者  
杵築市長 永松 悟



杵築市立山香病院 病院事業管理者  
院長 小野 隆司

2023年度の杵築市地域医療フォーラムは衣食住の“住む”ことをテーマで議論したいと考えています。我々は日々の暮らしの中で住む場所に何を求めているのでしょうか？先祖代々住み続けている人もいれば、一大決心して身も知らない土地に移って可能性を試すこともあるはずです。私たちはどんな町に住みたいのでしょうか？住めば都と言いますが、決まった答えはないのかも知れません。最近では多くの方が何を求めてか？東京など都会に集中しています。その理由は为什么呢？我々の住む杵築市はどのようなのでしょうか？住みやすい？住みにくい？簡単には回答しにくいかも知れません。

今回、我々は杵築市の別荘地である梶ヶ浜に住む皆さんに焦点を当てて考えてみることにしました。杵築市の海岸線に大和ハウス工業のリゾート別荘として開発され、約250戸の区画があり、30年以上前に多くの方々が希望を持って移住されたと聞いています。別府湾を見下ろす斜面にあり風光明媚な地形は私も興味をそそられます。大分空港からも遠くなく、県外からの方が多かったと聞いています。30年の月日が流れ、高齢化が進むとともに健康問題などが顕在化し、住み続けることに様々な問題が生じてきたようです。当院も通院支援を拡大する中で梶ヶ浜の現状を知ることになりました。住民にとっても高齢化は想定範囲だったはずですが、我々はその問題を共有していませんでした。今からどのように関われば良いのか？どんな協力ができるのか？模索している最中です。公的病院であることから行政にも協力を求め一緒に動き始めました。母体の大和ハウス工業も時代の変化に即応した新たな動きとしてリブネスタウンを推進し、人口減の時代にこれまでの住宅地への関わり方を見直している最中でした。住民、企業、行政、病院と一緒に、“住まう“ということの”これまで“と”これから“を考える機会をいただきました。多くの方が若い頃には保健・医療・福祉（介護）などはあまり気にならないかも知れません。しかし、年齢が進むに従いその必要度が増していくのが現実です。過去から現在を検証して、持続可能な未来を考えることが大切です。今後どのように関わることが最善なのか？一方で人口減・少子高齢化が進む杵築市は本当に人口を増やしたいのか？市内の出生数の減少はただ受け入れるしかないのか？昔から住んでいる人も住みやすく、移住した人も住みやすい町になるにはどんな努力が必要なのか？“住む“要件は世代によって異なるのかも知れません。若い世代であれば教育は必須条件かも知れません。どの世代でも健康面での安心感は重要だと考えます。

今回のフォーラムでは、リブネスタウンプロジェクトを推進する原納常務に基調講演をいただき、梶ヶ浜の過去を検証いただき、これからのハウスメーカーのまちづくりのビジョンをお話しいただくつもりです。梶ヶ浜の現状をダイワハウスの山中部長、住民代表として保健師の川口さんからお話しいただき、杵築市の協働のまちづくり課の阿部課長、大分県の先進地として臼杵市地域創生課の石井課長代理から行政の立場でお話いただく予定です。さらにシンポジウムでは島根県雲南市の地域創生に記者として関わった田中謙太郎さんをお招きしその経験をお話しいただきます。人口減の杵築市の未来を変革する実りある提案ができればと考えています。

【文責：小野】

## プログラム

- 9：00～9：10 ○ 開会挨拶  
永松 悟（杵築市立山香病院 開設者・杵築市長）  
小野 隆司（杵築市立山香病院事業管理者兼院長）
- 9：10～10：20 ○ 基調講演  
座 長：永松 悟（杵築市長）  
講演テーマ：「地域再耕、リブネスタウンの取り組みについて」  
講 師：原納 浩二（大和ハウス工業株式会社 常務執行役員）
- 10：20～10：30 休 憩
- 10：30～11：10 ○ 取組報告  
座 長：英 哲郎（杵築市医療介護連携課 課長）
- 取組報告 1  
報告テーマ：「ロイヤルシティ別府湾杵築リゾートでの取り組み」  
報告者：山中 則雄（大和ハウス工業株式会社 森林住宅管理運営部長）
  - 取組報告 2  
報告テーマ：「杵築市に移住して住み続けるために感じたこと」  
報告者：川口 洋子（別府湾杵築リゾート移住者・保健師）
  - 取組報告 3  
報告テーマ：「臼杵市における未来のカタチ」  
報告者：石井 義恭（臼杵市地域力創生課 課長代理）
  - 取組報告 4  
報告テーマ：「杵築市移住・定住促進事業の取り組み」  
報告者：阿部 正純（杵築市協働のまちづくり課 課長）
- 11：15～12：30 ○ パネルディスカッション  
テ ー マ：「健康でつなぐ住みよい未来のまちづくり」  
座 長：小野 隆司（杵築市立山香病院事業管理者兼院長）
- 導入報告  
報告テーマ：「移住とまちの文脈 — 広島・島根から —」  
報告者：田中 謙太郎（ライター（元中国新聞社記者））
- 講 師：阿部 正純（杵築市協働のまちづくり課 課長）  
パネラー：山中 則雄（大和ハウス工業株式会社 森林住宅管理運営部長）  
川口 洋子（別府湾杵築リゾート移住者・保健師）  
石井 義恭（臼杵市地域力創生課 課長代理）  
助 言 者：原納 浩二（大和ハウス工業株式会社 常務執行役員）  
意見総括者：永松 悟（杵築市立山香病院 開設者・杵築市長）
- 12：30～12：40 ○ 閉会挨拶 宇都宮 健士（杵築市立山香病院 事務長）

基調講演

地域再耕、リブネスタウンの取り組みについて

大和ハウス工業株式会社 常務執行役員

はらのこうじ  
原 納 浩 二



ただいま、準備中です。  
3月13日に掲載します。

報告テーマ：「ロイヤルシティ別府湾杵築リゾートでの取り組み」

報告者： 山中 <sup>やまなか</sup> 則雄 <sup>のりお</sup> (大和ハウス工業株式会社 森林住宅管理運営部長)

### 【1. 森林住宅地について】

約 50 年前の 1973 年から弊社では「リゾートを生活の一部に組み込んだ総合生活産業」を目指し、全国の景勝地に森林住宅地を開発しました。この事業から派生する①地域活性化②雇用創出③自然環境との共生により、その地域の価値を高めることを目的としています。杵築市においても 1994 年に「ロイヤルシティ別府湾杵築リゾート」を開発し、未来へつなげる街づくりを行っております。

### 【2. 梶ヶ浜地区の現状と課題】

梶ヶ浜地区においては居住者の多くが県外移住者で構成されており、静かな環境や温暖な気候、都市圏との交通利便性などに魅力を感じ移住されております。しかし、長年住み続けるなかで、杵築市内において最も高齢化（高齢化率 75.3%）が進み、本当は生涯住み続けたいという思いを抱きつつ転出せざるを得ない状況が顕在化して参りました。持続可能な梶ヶ浜地区にするためには、コミュニティの再構築を柱として予防医療の課題・独居の課題・移動手手段の課題等について住民の皆様、関係各署と広く連携し未来志向の課題解決を図る必要があります。

### 【3. 梶ヶ浜地区での取り組みについて】

梶ヶ浜地区においては、コミュニティの拠点となる「杵築シェアサロン」・「暮らす森テラス」を新たに開設致しました。この 2 施設は地域に向け開かれた施設であり、今では交流の場・交流機会の創出に寄与しております。

予防医療の課題については、杵築市立山香病院様・杵築市医療連携課様と共に「健康のまちづくりプロジェクト」をスタートし、フレイル予防・健康維持のための取り組みを継続して行っております。また、少子高齢化により地域行事の維持が困難になっている現状を鑑み、新たな地域交流イベントである「梶ヶ浜文化祭&マルシェ」の開催、環境整備とやりがい・生きがいに着目し、荒廃した竹林を人が集う竹林公園に整備する「竹林ボランティア活動」なども組織して参りました。

高齢化に伴うフレイル孤食対策としては、杵築市内の飲食店様と連携した「暮らす森食堂」を定期開催しております。

地球温暖化により自然災害の激甚化が危ぶまれる中では、自治会や全国の森林住宅地をつないだ防災イベントなどを通じて課題解決に取り組んでおります。

### 【4. 今後の梶ヶ浜地区における連携について】

梶ヶ浜地区に関係する「住民」「自治会」「地域の皆様」「杵築市」「社会福祉協議会」「杵築市立山香病院」と弊社が連携した様々な取り組みを深化させコミュニティの再構築を目指して参ります。

# ロイヤルシティ別府湾杵築リゾート (梶ヶ浜地区) の取組について

2024年3月16日

大和ハウス工業株式会社  
森林住宅地管理運営部  
山中 則雄

## 1. 森林住宅地の歴史（開発経緯）について

【開発経緯】 『リゾートを生活の一部に組み込んだ総合生活産業』

【全国の景勝地】 ①地域活性化 ②雇用創出 ③自然環境保全 を目指す

※逆境のリーダー石橋徳夫より引用



## 2. 全国森林住宅地のご紹介



【猪苗代／裏磐梯】  
遠沢不動産  
2022年6月撮影  
ロイヤルシティ猪苗代ヒルズ  
売主：大和ハウス工業



【鹿部】  
オーナー投稿写真  
2002年12月撮影



【宮城蔵王】2022年5月撮影

ロイヤルシティ八幡平リゾート  
ロイヤルシティ宮城蔵王リゾート  
売主：大和ハウス工業

### 3. 全国森林住宅地のご紹介

Daiwa House.



【霧島高千穂】空撮 / 2022年9月撮影



【大山】柏倉富士 / 2011年4月撮影  
ロイヤルシティ大山リゾート  
売主：大和ハウス工業



【阿蘇】  
栴戸石の丘  
2011年9月撮影  
ロイヤルシティ  
阿蘇一の宮リゾート  
売主：大和ハウス工業



【佐田岬】  
オーナー投稿写真  
2011年12月撮影



【杵築】街並み / 2023年7月撮影  
ロイヤルシティ別府湾杵築リゾート  
売主：大和ハウス工業

### 4. 別府湾杵築リゾート＝梶ヶ浜地区の位置と遷移

Daiwa House.



出典：国土地理院サイト  
地図・空中写真閲覧サービスより

1970年代

近年

### 5. 別府湾杵築リゾート＝梶ヶ浜地区の街並み

Daiwa House.



ロイヤルシティ別府湾杵築リゾート

別府湾を望む  
梶ヶ浜地区の街並み

6. 別府湾杵築リゾート＝梶ヶ浜地区の概要

DaiwaHouse®

販売済区画：339区画  
 建築済区画：260棟（定住198・別荘62）  
 定住人口：381人  
 世帯数：198世帯

総区画：371区画  
 開発面積：約32万㎡  
 （2023年3月末現在）



7. 移住前の居住地と移住の理由

DaiwaHouse®

どこから、移住して来ましたか？（前居住地）



なぜ、梶ヶ浜地区に移住しましたか？

多かった回答

- ① 海・山・温泉のある静かな環境（800mの砂浜・別府・湯布院）
- ② 陸路・海路・空路の3拍子揃っている（高速道路・フェリー・空港）
- ③ 生活環境が整っている（スーパー、病院、歴史ある街並み）
- ④ 温暖な瀬戸内式気候

8

DaiwaHouse®

ところが、  
 全国森林住宅地に  
 “ある変化が”・・・

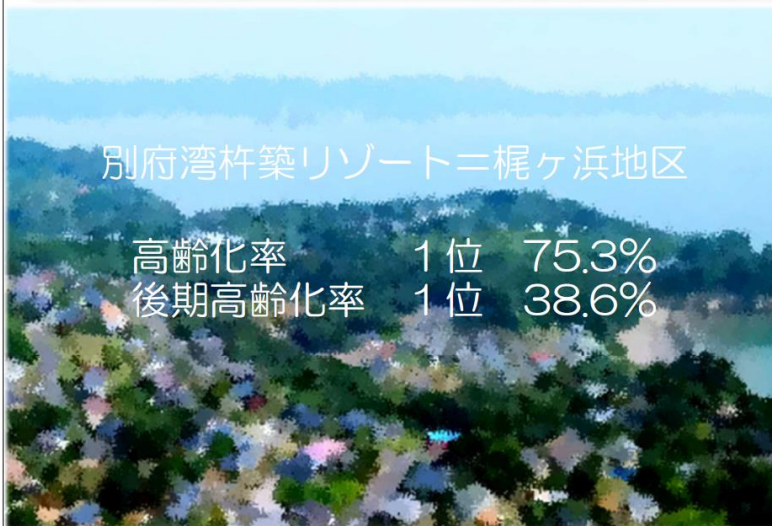


本当は、生涯住み続けたいのに・・・

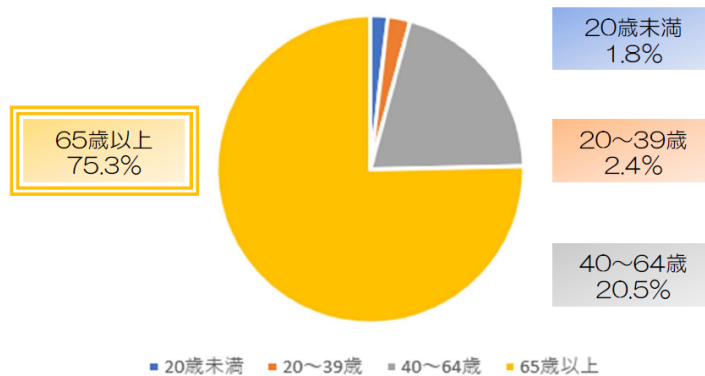
- ① 加齢による変化（心と体） ⇒ 健康寿命の経過
- ② 住まい方の変化（独居等） ⇒ 支える側から、支えられる側へ
- ③ 移動手段の変化 ⇒ 運転免許証返納
- ④ ご近所付き合いの変化 ⇒ コミュニティの大切さ（再構築）

全国の森林住宅で高齢化が進み、現在では・・・

森林住宅地 全国平均 高齢化率 60%	順位	森林住宅地	高齢化率	後期高齢化率	順位	森林住宅地	高齢化率	後期高齢化率
	1	?	?	?	11	大山	53%	16%
2	鹿部	74%	35%	9	八幡平	50%	10%	
3	阿蘇	69%	21%	11	裏磐梯	50%	0%	
4	高千穂	66%	26%	12	妙見台	41%	4%	
5	佐田岬	63%	22%	13	芸北	40%	20%	
6	蔵王	59%	20%	14	能登	32%	12%	
7	大金台	53%	34%		猪苗代	29%	16%	



梶ヶ浜地区年齢構成

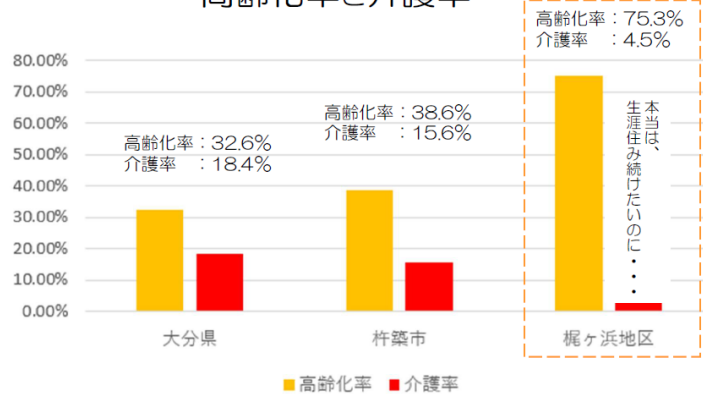


杵築市：市民生活課データ／医療介護連携課データ

## 1 2. 梶ヶ浜地区の現状②

DaiwaHouse®

### 高齢化率と介護率



杵築市：市民生活課データ／医療介護連携課データ

## 1 3. 生涯住み続けるための課題

DaiwaHouse®

持続可能な梶ヶ浜地区にするには・・・

(互助の課題) = コミュニティの再構築



① (予防・医療の課題) 加齢による変化 ⇒ 健康寿命の経過  
杵築リゾートの定住者の平均年齢=約70.2歳  
65歳以上=75.3%/75歳以上=38.6% ⇒ 5年後=約61.7% (杵築市資料参照)

② (独居の課題) 住まい方の変化 ⇒ 支える側から支えられる側へ  
健康不安⇒通院が不便/体力低下=救急医療への懸念。  
独居率=18.7% ⇒ 独居世帯増加の懸念

③ (移動手段の課題) 移動手段の変化 ⇒ 運転免許証返納  
コミュニティバス/集合タクシーだけでは不便  
免許証返納=気軽な移動手段が無くなり生活に支障

## 1 4.

DaiwaHouse®

梶ヶ浜地区での取組について

15. 杵築シェアサロン = 交流施設 ①

Daiwa House®



気軽に立ち寄れる交流施設としてオープン

毎月平均290名以上の方がご利用

※散歩の休憩・おしゃべり  
ワークショップ・様々な催し等の定期開催  
※地域の方にもご利用いただける開放型の施設



16. 暮らす森テラス = 交流施設 ②

Daiwa House®



シェアサロンの隣に図書スペースを併設しオープン

毎月平均140名以上の方が利用

図書スペースも毎月30名以上の方が利用

17. 梶ヶ浜健康のまちづくりプロジェクト

Daiwa House®

2023年1月：杵築リゾートの医療について、山香病院・杵築市と話し合いをスタート  
～6月：山香病院までの交通支援サービスの実証実験を開始  
自宅⇄山香病院の交通支援サービス/健康増進・維持の出前講座を実施中



フレイルチェック(筋肉量測定)



理学療法士サポートによる  
VR治療の体験



山香病院リハビリ科士長によるストレッチ講習

18. ボランティア活動 = 竹林整備&ヤギ小屋作り

Daiwa House®



ボランティア活動

竹林公園の整備  
オーナー様と毎月1回実施

環境整備だけでなく、ヤギ除草プロジェクトのヤギ小屋作りを協働で実施

海を渡るアサギマダラプロジェクトのフジハカマ花壇作り等 様々な取組みを実施中



公園内のヤギ小屋作り

堆肥(落ち葉)置き場作り

19. 地域交流イベント = 地域の皆様&杵築高校

Daiwa House®

梶ヶ浜文化祭&マルシェ

11月11日(土)~13日(月) : シェアサロンと暮らし森テラスで文化祭開催  
12日(日) : キッチンカーマルシェ/ステージ : 県立杵築高校書道部の書道パフォーマンス  
13日(月) : オーナー様による竹灯籠&ヴァイオリン演奏を開催  
オーナー様同士や周辺地域の皆様との交流を広げるきっかけ作り取組中



浜っ娘&手話ソング&フラダンスの演技



文化祭の展示(水墨画・油絵・陶芸等)

20. 竹林フェス・タケノコ掘り講習会

Daiwa House®

2回目となる竹林公園を知っていただく機会として行っている企画。  
今年度は2023年6月24日(土)に開催。

昨年度と同様、約80名が来場

ジャグリング



会場の様子



昨年度から竹林ボランティアメンバーが中心となり整備している竹林公園で、専門家の指導のもと、タケノコ掘り講習会を実施



## 2.1. 地域事業者連携＝フレイル予防・孤食対策

DaiwaHouse®

### 暮らし森食堂 ＝ 毎月平均100食のご注文

オーナー様同士の交流の機会・場の提供／外出機会の創出／家事負担の軽減  
地域事業者様との連携・販売支援（5事業者＝お弁当・和菓子）



松山堂さんの和菓子・お弁当販売



キッチンるーむさんのお弁当販売



麦の穂さんのお弁当販売

## 2.2. ITでつながる全国の森林住宅地

DaiwaHouse®

### 全国森林住宅地を つなぐ オンラインイベント

スポーツクラブNASのインストラクター  
による健康維持のため健康講座  
全国連携の防災イベントや囲碁対局などを  
実施



## 2.3. ITリテラシーの向上による暮らしの支援

DaiwaHouse®

### スマートフォン教室

携帯電話事業者さんの協力のもと開催  
昨年2月からは毎月2回、8月までの計14回開催。来年度の講座も検討中。



## 24. 災害に強いまちづくり

Daiwa House®

### 防災への取組

区会自主防災会：年2回の避難訓練  
8月：地震体験車の体験と消火器講習

11月：当社主催の  
全国オンライン防災企画  
熊本地震から学ぶ企画を開催  
※防災倉庫の設置等



避難訓練後、防災士から説明



地震体験車による震度5強の体験

## 25. 交流と癒しの機会提供 = ヤギ除草プロジェクト

Daiwa House®

### ヤギ除草プロジェクト

竹林公園の除草を兼ねたヤギ放牧の実証実験

7月～半年間：子ヤギ3匹を放牧  
癒し効果とオーナー様同士の交流も活性化

来年度の継続を強く望まれる声も多数



ヤギ除草開始



## 26. 各種ワークショップ = オーナー様主催

Daiwa House®

### 各種ワークショップ開催

定期開催のワークショップ：サロン/テラス

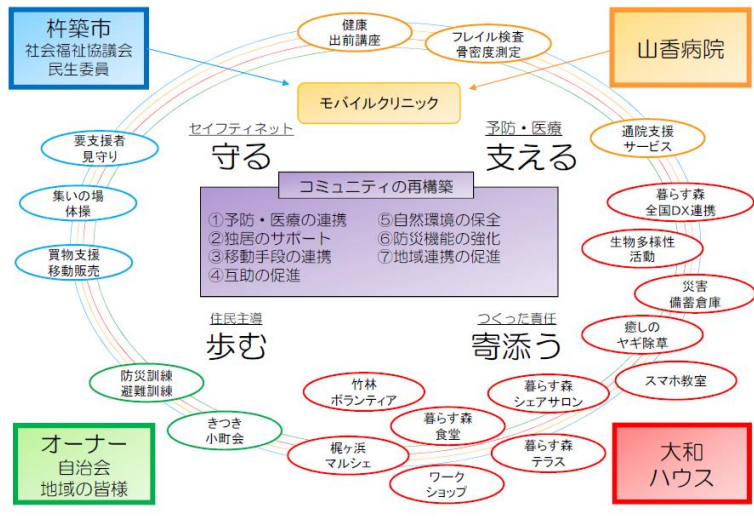
- ①お茶会（茶道教室）
- ②フラワーアレンジメント
- ③パッチワーク
- ④手話ソング（月7回開催）

その他多数開催



27. 今後の梶ヶ浜地区における連携イメージ

Daiwa House®



Daiwa House®

ご清聴ありがとうございました

報告テーマ：「杵築市に移住して住み続けるために感じたこと」

報告者：川口 <sup>かわぐち</sup> 洋子 <sup>ひろこ</sup>（別府湾杵築リゾート移住者・保健師）

杵築市に移住して10年余りが経ちました。

子どもや孫たちが遊びに来て自然が身近にあるところという条件で色々探していたところ、杵築リゾートに見学に来る機会を得て、気に入って移住を決めました。

この地区はリタイア後の方や高齢の方が多いためか救急車の出動もよくあるように感じていました。また、ご夫婦で移住してこられても連れ合いが亡くなれば単身となられたり、ご夫婦でともにご高齢になられて生活がしづらくなり転居される方も見受けられました。

この地でこれからもできるだけ長く生活していくためには健康（フレイル予防）が大切だと思っていました。そんな折、杵築市立山香病院が「健康のまちづくりプロジェクト」を昨年1月から始めてくださいました。医療が地域に出てきて、顔の見える関係づくりに努めてくださっています。

この地で「最期までよく生きる」ためには医療が生活の場の身近にあることが住民の安心感に繋がると思います。今後とも医療が保健分野（健康づくりや介護予防や認知症予防）等と協働して住民の健康を支えてくださるようお願いしています。

#### 【プロフィール】

昭和51年 淀川キリスト教病院入職

昭和54年 奈良県入庁。奈良県内保健所や本庁（医務課、健康増進課、保険福祉課、保健予防課等）勤務を経て、平成25年退職。その間、保健師として阪神・淡路大震災、中越地震、東日本大震災の被災地への支援も経験。

現在は、大分県在宅保健師等「虹の会」副会長として県内市町村の保健事業評価・支援に従事。



## 杵築市に移住して、住み続けるために感じたこと



別府湾杵築リゾート移住者・保健師  
川口 洋子

- 1 自己紹介
- 2 我が家の移住の条件
- 3 移住して
- 4 これからも住み続けるには

### 1 自己紹介

保健師とは

保健師は、日本において、保健師助産師看護師法に基づき、厚生労働大臣の免許を受けて、保健師の名称を用いて、**保健指導に従事することを業とする者**。大学や保健師養成校にて所定の教育を受けた後、**看護師国家試験と保健師国家試験の両方に合格して**得られる国家資格である。

保健師は地域に住むあらゆる年代の住民の幅広い内容の相談に対応した保健指導や健康管理、乳幼児健診などをおこなうことが主な仕事です。地域の保健所や市役所で働く「行政保健師」、企業の医務室や健康相談部で働く「産業保健師」、小学校や中学校などで働く「学校保健師」などがあります。

**看護師が主に病気になったあとの治療に携わるのに対して、保健師は主に病気になる前の“予防”に携わります。**そのため支援対象者が幅広く、公務員として行政機関に勤務することが多いのが保健師の特徴です。

災害時

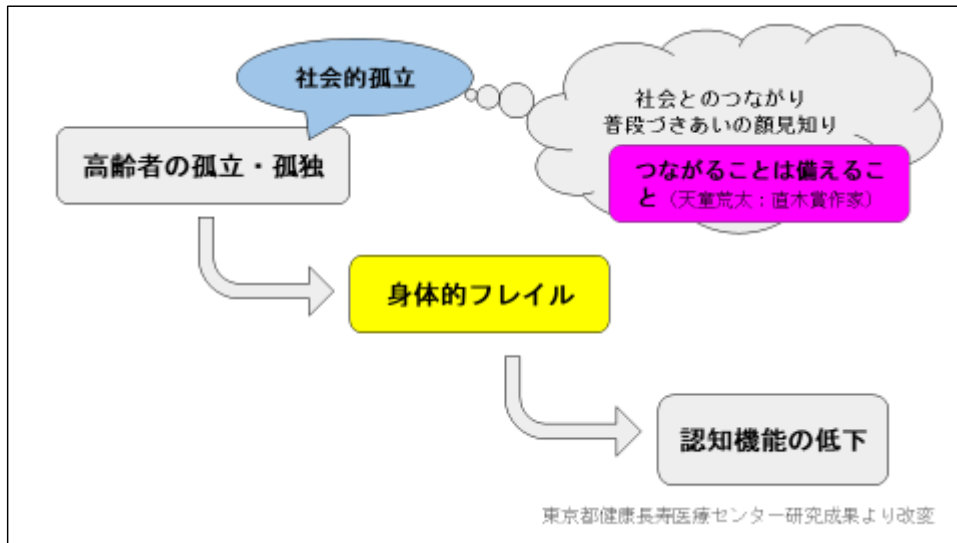
感染症対応



## 2 我が家の移住の条件

- 子どもたちや孫たちが遊びに来られる
- 自然が身近にある
- 海が見える
- 交通の便が良い・・・空港が近い、駅が近い
  
- 買い物する店が近くにある
- 医療機関が近くにある
- 運動施設が近くにある・・・プール、体育館など





#### 4 住み続けるには

- 移住して11年目に入り、自分の人生の先が見えてきたと感じていたところ
- 2023年1月から当区で杵築市立山香病院の「健康のまちづくりプロジェクト」が開始された **医療が地域（予防の分野）に出てきてくれた**

例1：当区内での通院支援事業の試験運行

例2：病院の出前講座でフレイルチェック

例3：病院の出前講座で簡易な骨密度測定

この地で「最期までよく生きる」を支えるためには医療が生活の場の身近にあることが住民の安心感に繋がる

これからは今以上に市の保健や健康づくり、福祉の担当も予防の分野（視点）で医療と協働して地区（地域）活動をしたいと切に願っています

報告テーマ：「臼杵市における未来のカタチ」

報告者：石井 義恭<sup>いししい よしやす</sup>（臼杵市役所地域力創生課 課長代理）

本市は自然豊かなまちであり、魅力的な食文化を有している。400年以上続く発酵・醸造文化が根付いていることや質素儉約の郷土料理、環境に配慮した有機農業の展開等から、令和3年12月に国内で2番目となるユネスコ創造都市ネットワーク（食文化部門）への加盟が認められた。

また、本市の大きな強みとして、地域コミュニティの活動が活発であることが挙げられる。本市では、自治会を中心とした住民が主体となり、平成21年から令和2年までの11年の歳月をかけて18カ所の旧小学校区すべてに「地域振興協議会（地域運営組織：RMO）」の設立を完了している。人口減少により自治会単位ではお祭り等の地域活動や行事を継続することが困難になっているが、市内303の自治会が18の地域振興協議会にまとまることによって身近な地域でのつながりを深め、地域の一体感や日常生活での安心感を作りあげることがめざした地域活動が展開されている。

こうした住民主体の取組に加え、「臼杵市子ども・子育て総合支援センター ちあぽーと」を中心とした子育て環境の充実や、医療・介護ICTネットワークである「うすき石仏ねっと」による安心の医療体制も本市の大きな強みとなっている。こうした本市が持つ安心感や住みやすさといった魅力をアピールしながら、移住・定住施策にも力を注いでいる。

その背景にあるのは、人口減少の進展である。昨年末、国立社会保障・人口問題研究所から市町村ごとの将来人口推計が公表されたが、現在の人口約3万6千人が約25年後の2050年ごろには2万人を下回ると示された。本市において65歳以上の高齢者人口は既にピークを過ぎているが、医療や介護等の支援を必要とすることが増える85歳以上の人口は2035年頃までさらに増え続ける。一方で、生産年齢人口（15～64歳）は大幅に減り続け、2020年には約1万7千人だったものが2050年には約8千人と半分以下になると見込まれる。

少子化に歯止めをかけていくことはもちろん、移住者を増やす、外国人との多文化共生をめざす等、多角的な方策を探っていくことが欠かせない。もちろん、行政の努力だけでは人口減少に伴う社会変化への対応は困難である。医療・介護・福祉等の支援関係機関や住民をはじめとした地域の関係者等が方向性を共有し、助け合いながら暮らすことのできる地域共生社会の実現が求められる。本市を守り、支える関係者の参画と協働による、これからの健康づくりと地域づくりが本市の発展的な持続可能性を高めていくと考えている。

### 【プロフィール】

現 職：臼杵市役所 地域力創生課 課長代理

略 歴：保育士として障がい分野での相談援助等に携わる中で、世代や状態像を問わず、子どもから高齢者まで切れ目ない対人援助の必要性を感じ、高齢分野のケアマネジメントや地域包括支援センターといった支援の現場に従事。

平成28年4月より厚生労働省老健局総務課、令和元年4月からは社会・援護局 地域福祉課／地域共生社会推進室併任として、地域包括ケアシステムの構築、及び地域共生社会の実現に向けた取組の展開に携わる。

令和3年4月より臼杵市に入庁し、生まれ育ったまちで多機関・多職種連携と地域連携の先にある分野横断的なまちづくりをめざしている。



## 白杵市における「地域づくり」のカタチ

白杵市地域力創生課  
地域共生グループ 石井 義恭



### 白杵市について



面積 : 291.08 Km<sup>2</sup>  
人口 : 35,620人  
世帯 : 16,925世帯  
高齢化率 : 41.93%  
※令和6年1月1日時点(住基ベース)

#### 【白杵市の特徴】

- ① 豊かな「食文化」
- ② 活発な「地域活動」
- ③ 充実した「子育て環境」
- ⑤ 安心の「医療」



### 白杵市の特徴：豊かな「食文化」について

#### ユネスコ創造都市ネットワーク (食文化分野) 加盟認定

令和3年11月

白杵市が大切に培ってきた、発酵・醸造文化や有機農業の推進などの取組が世界的にも評価。醸造・発酵産業や質素節約の郷土料理など本市の伝統的な食文化や、有機農業や水源涵養の森づくり、地産地消をさらに推進していく。

#### 【発酵醸造業】



みそ、しょうゆ

#### 【質素節約の文化】



黄飯、かやく

#### 【循環型食文化】



白杵市土づくりセンター



日本酒、焼酎



きらすめし









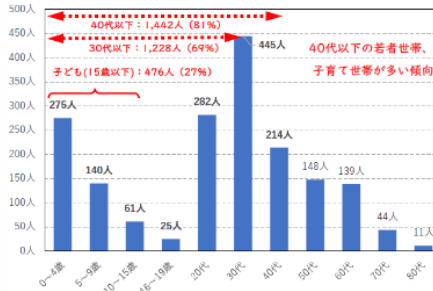
## 白柵市への移住の現状について

### 【移住者数の推移】

※移住支援補助制度を利用した移住者

年度	世帯数	移住者数
H27年度	78世帯	172人
H28年度	77世帯	203人
H29年度	112世帯	266人
H30年度	95世帯	220人
R元年度	117世帯	255人
R2年度	104世帯	231人
R3年度	106世帯	226人
R4年度	102世帯	211人
合計	791世帯	1,784人

### 【移住者の年齢分布】



### 【年齢別人口と出生数】

(R5.3.31時点)

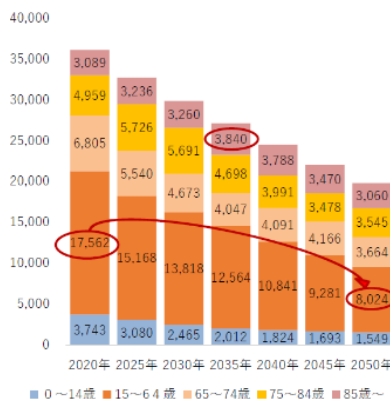
年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳
現在の数	148	167	178	196	202	238	228	233	271	277
出生時の数	142	149	167	180	190	200	187	201	239	268
増減	+6	+18	+11	+16	+12	+38	+41	+32	+32	+9

※ 移住・定住施策の影響により、子どもの数が増えている(+215名)ことが推測される

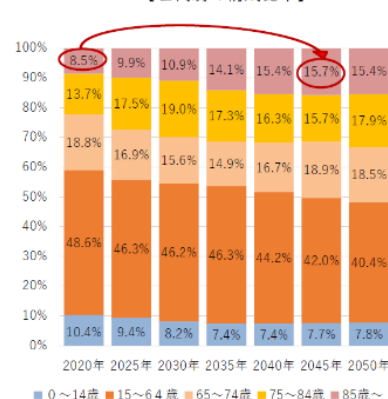
## 白柵市の将来人口推計について（令和5年推計）：再掲

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
総人口	36,158	32,750	29,907	27,161	24,535	22,088	19,842

### 【世代別の人口推移】



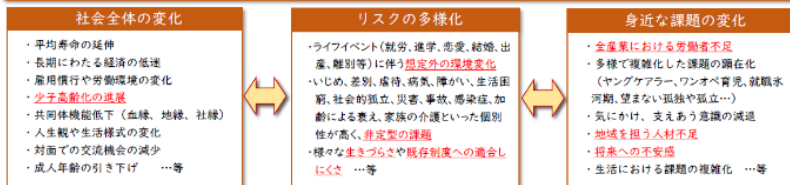
### 【世代別の構成比率】



国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（令和5（2023）年推計）に基づいて試算：2020年は国勢調査による実績値

## 白柵市民を取り巻く生活環境の変化と対応方針について

- 日本全体の人口減少を含め、社会全体が大きく変化していますが、日々の生活の中では実感しにくく、知らず知らずのうちに私たちの暮らしにも様々な影響が表れてきています。
- 様々な選択肢が増えていて一方で、個人が抱えるリスクが多様化、複雑化しており、これまで通りの公的な制度やサービスの充実だけでは、生活する上での課題が解決しなくなっています。
- 多様な関係者が協力し、工夫する「**参画と協働**」を推進することが、地域を活性化し、持続的に発展させていきます。



健康的に暮らし、無理なく参画し、協働できる「市民が主役のまちづくり」（地域力創生）



## 令和5年度白杵市の「守り、支える」地域づくり

- ヤングケアラー、孤独・孤立、地域交通、生活支援等の地域課題への対応が求められており、単独の機関や部署による支援だけでは、市民の暮らしを支えられない状況が生じている。
- 既存の機能や機構、人材、財源、情報、ノウハウ等を重ね合わせ、それぞれの分野だけでは解決や伴走が困難な課題に効率的・効果的に対応できる地域づくりを目指す。また、白杵市という地域全体をフィールドにした連携を展開することにより、地域の持続的発展を支え、地域の一体感や日々の安心感を醸成していく。



## 白杵市の将来に備える「地域力創生」の考え方について（イメージ）

- 白杵市における地域力創生の取組は、生活基盤としての白杵市でともに暮らす市民が、「変わっていくもの」と「変わってはいけないもの」についてともに考え、住み心地一番のまちであり続けることを目指します。
- 私たちの暮らしは、人それぞれに多様です。多様性を認め、受け入れ、それぞれの人々が力を発揮できるまちづくりに取り組むことは、幸せや心の豊かさを実感できる生活の基盤を強固にし、暮らしを取り巻く様々な社会・経済活動の基盤の持続的発展にもつながります。
- 風土や文化の継承、災害時への備え、温かい心といった「将来を担う子どもたちに胸を張って継承できる白杵市」を残していくために、暮らしを構成する多様な主体を目指す方向性を共有し、参画と協働を重視することにより、行政、医療・保健・介護・福祉、教育、環境、経済等を包摂したライフステージを通じて切れ目のない、未来に希望が感じられ、安心して暮らせる環境づくりに取り組みます。

【白杵市まちづくり基本条例（自治基本条例）の原文より抜粋】  
『生まれて』『育って』『働いて』『働いた』良かつたと思える心豊かな、笑顔がゆきかま白杵市を、市民が主体となって次世代に確実に引継ぎ、発展させていくことをめざします。



## 「地域共生社会の実現」について

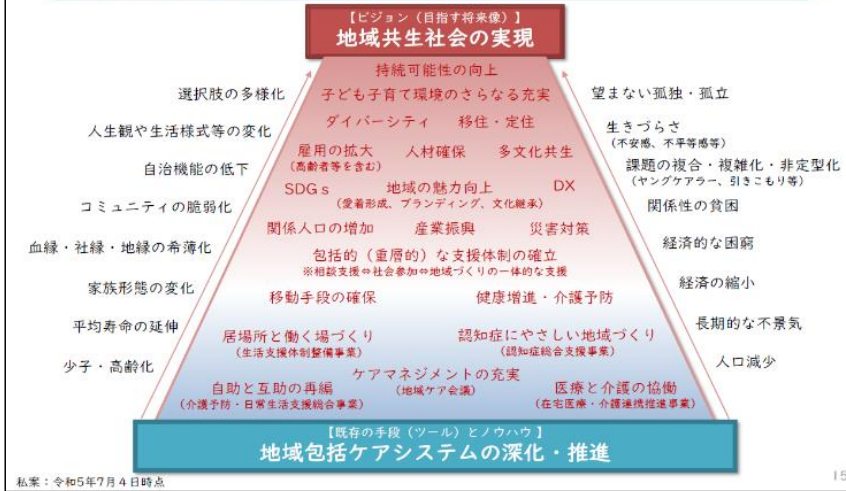
- 地域共生社会の実現は、平成28年6月2日に閣議決定されたニッポン一億総活躍プランに盛り込まれ、「子供・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる地域共生社会を実現する。このため、**支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる団体が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する。**」とされた。
- こうした無条件的な要素のみならず、「全ての人々が包摂される社会が実現できれば、安心感が醸成され、将来の見通しが確かになり、消費の底上げ、投資の拡大にもつながる。また、多様な個人の能力の発揮による労働参加率向上やイノベーションの創出が図られることを通じて、経済成長が加速することが期待される。」とされており、日本の経済成長の陥穽である**少子高齢化に真正面から立ち向かうための成長での経済政策としての方向性も併せ持った支え手側**である。



出典：厚生労働省「地域共生社会のポータルサイトよりイラストを引用」

社会全体の変化に対応するための「地域づくり」の中・長期的な展開（一例）

社会全体が変化しており、これまでの通りの取組を延伸するだけでは「市民の暮らし」を支えることが困難です。地域住民を含む多様な関係者が有機的につながり、方向性を共有し、わがまち白杵の地域づくりに参画し、協働していくことが、白杵市の発展的な持続可能性を高めていきます。



## 取組報告 4

報告テーマ：「杵築市移住・定住促進事業の取り組み」

報告者：阿部 <sup>あべ</sup>正純 <sup>まさずみ</sup>（杵築市協働のまちづくり課 課長）

本市は国東半島の付け根に位置し、大分空港にも近く、J R日豊本線、3本の高規格道路が通るなど、交通の要衝となっている。また、別府湾に面する海岸地域から山間部に至るまで多様な地形に富むことから、農林水産物を中心とした「杵築ブランド」の確立に向け取り組んでいるところである。

また、高齢になっても住み慣れた地域で、いつまでも健康で生きがいをもち、安心して暮らせる「健幸都市」を目指し、特に、「こどもまんなか」社会の実現はもちろん、妊産婦の健康支援や子育ての孤立を防ぐ支援を通じた「ママもまんなか」社会の実現も併せて、市民全てが「健幸」に暮らせる杵築市を目標とし、その取組みを進めているところである。

一方、過疎化や少子高齢化が進展し、地域での担い手不足が深刻となっている。また、地域課題が複雑化・多様化しているといった社会情勢も見られる。そのような中、住民が、その課題にいち早く気づき、行政につなげ、地域と行政が一緒になって解決につなげる「第2の役場」づくりを進めるため、市内全域で13の住民自治協議会を設立し、その取組みを支援している。

しかし、人口減少が急激に進むことで、地域経済の循環や地域コミュニティの維持が難しくなり、地域の魅力や生活利便性が低下し、さらなる人口減少を生むといった負のスパイラルに陥る可能性が否定できない。

この人口減少をいかに食い止めるか、あるいは減少幅を緩やかにするか、という施策が必要で、その対策の一つが「移住・定住」促進事業の取組である。

本市の魅力、特に自然、特産品などの地域資源から子育て、教育、福祉、医療などの全ての人にやさしい取組み、これらの取組みを総合的に実施することで「住みたい」、「住み続けたい」と思えるまちになっていくと思われる。

### 【プロフィール】

現職：杵築市役所 協働のまちづくり課課長

略歴：平成6年、旧山香町役場入庁。農業、税務、企画、情報、財政分野等を経て現職。

移住・定住促進のほか、コミュニティ協働、地域公共交通の総括



# 杵築市「移住・定住促進事業」 の取組み

## 「住みたい」「住み続けたい」 と思えるまちづくり

R6. 3. 16

杵築市 協働のまちづくり課



### 杵築市の概況



項目	数値	注
面積	280.08km <sup>2</sup>	*a
平均気温 1月	5.3℃	*b
平均気温 8月	26.8℃	*b
年平均気温	15.8℃	*b
年間降水量	1,524.6mm	*b

\*a: 2020 国土地理院  
\*b: 2020 気象庁

項目	数値	注
国勢調査 人口	27,999人	*1
調査 世帯数	12,028世帯	
人口構成 年少人口	2,943人	*1
生産年齢人口	13,487人	
老年人口	10,378人	
住民基本 人口	27,054人	*2
世帯数	13,243世帯	
自然増減 出生	125人	*3
死亡	523人	
社会増減 転入	1,010人	
転出	1,045人	
高齢化率	38.59%	*2
合計特殊出生率	1.47	*4
就業者数 第1次産業	1,748人	*1
第2次産業	3,361人	
第3次産業	7,150人	

\*1: 2020 国勢調査  
\*2: R6.3.31現在 市民生活課  
\*3: R6.4月～R6.3月 市民生活課  
\*4: 大分県公表 衛生年鑑 (H29～R3平均)  
★R6.2月末 住基人口 26,619人



### 杵築市の観光

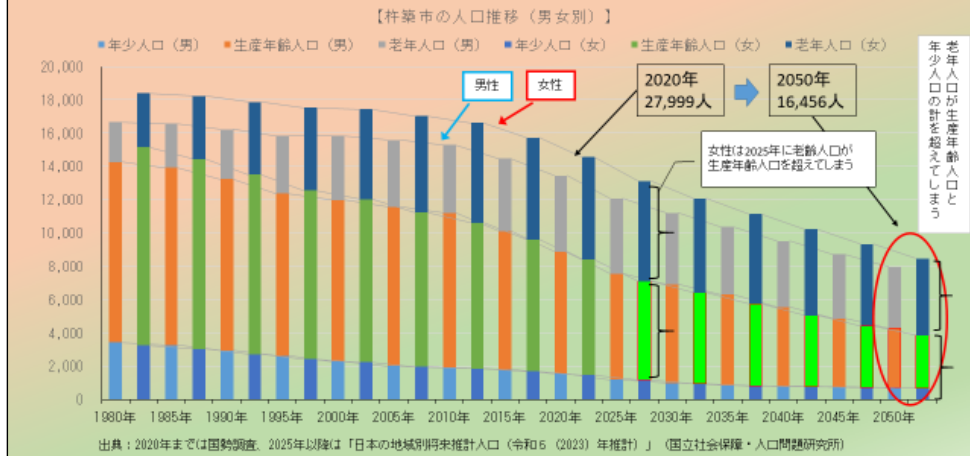


年	観光客数
2020年	601,196人
うち宿泊	20,618人
2021年	741,804人
うち宿泊	25,560人
2022年	646,171人
うち宿泊	24,399人

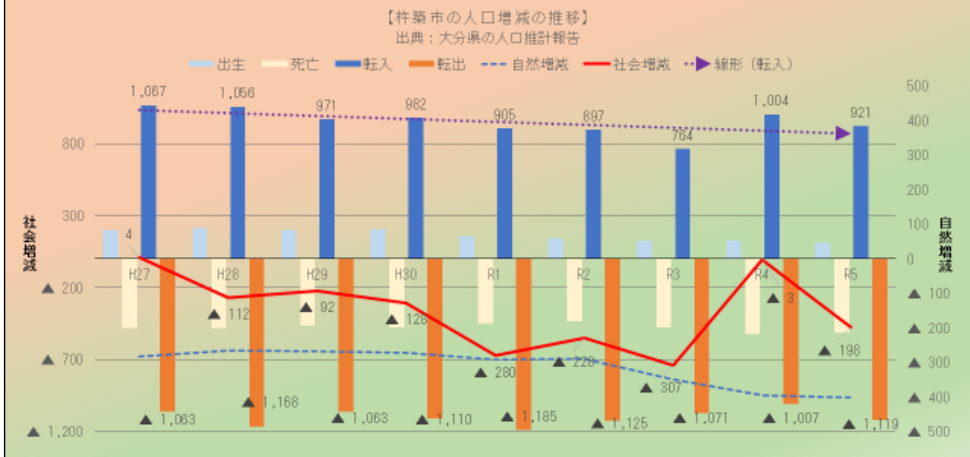
商工観光課 (観光動態調査)



## 杵築市の人口推移(男女別)



## 杵築市の人口動態(自然増減・社会増減)



## 杵築市の移住・定住の取組み

市外からの『移住』・・・「住みたい」、「住み始める」  
市内に『定住』・・・「住み続ける」

移住施策・・・杵築市に来てもらう取組み＝魅力アピール  
ウェブサイトでのPR、住宅取得の助成、  
移住フェアへの参加、移住体験の実施 など

定住施策・・・住みやすいまちづくり＝満足度アップ  
住まい、しごと、子育て、福祉、医療、  
教育、交通、買い物、QOLの充実 など



## 杵築市の移住・定住の取組み・・【移住】

市外からの『移住』・・・「住みたい」、「住み始める」  
市内に『定住』・・・「住み続ける」



移住施策・・・杵築市に来てもらう取組み＝魅力アピール  
ウェブサイトでのPR、住宅取得の助成、  
移住フェアへの参加、移住体験の実施 など

定住施策・・・住みやすいまちづくり＝満足度アップ  
住まい、しごと、子育て、福祉、医療、  
教育、交通、買い物、QOLの充実 など



## 杵築市移住定住ポータルサイト



トップページ右上から



杵築市移住定住ポータルサイト



## 杵築市移住定住ポータルサイト コンテンツ



- ・暮らし
- ・働く
- ・子育て
- ・空き家バンク
- ・Q&A

空き家バンク





## 杵築市の移住・定住の取組み・・・【移住】

市外からの『移住』・・・「住みたい」、「住み始める」  
市内に『定住』・・・「住み続ける」

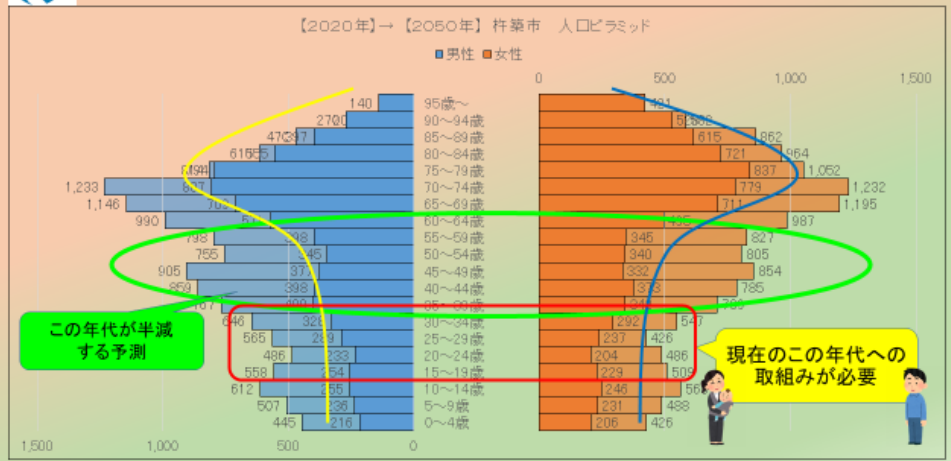


移住施策・・・杵築市に来てもらう取組み＝魅力アピール  
ウェブサイトでのPR、住宅取得の助成、  
移住フェアへの参加、移住体験の実施 など

定住施策・・・住みやすいまちづくり＝満足度アップ  
住まい、しごと、子育て、福祉、医療、  
教育、交通、買い物、QOLの充実 など



## 杵築市の移住施策・・・ターゲットは！



## 杵築市の移住施策・・・取組内容は

- ・ 移住支援事業補助金(県)・・・県外から県内企業への就職、テレワーク移住支援
- ・ 移住応援給付金事業補助金(県)・・・県外移住者への住宅取得支援
- ・ 転入促進補助金・・・県内・市内の方への住宅取得支援
- ・ 空き家活用補助金・・・空き家バンク家屋取得・改修支援

特に、若い年代、子育て世代に手厚い支援!!

①住宅取得は、子ども1人につき10万円を加算(3人なら30万円)

②県外からの移住でマイカーを取得する場合に1/4助成(上限50万円)





## 杵築市の移住・定住の取組み・・【定住】

市外からの『移住』・・・「住みたい」、「住み始める」  
市内に『定住』・・・「住み続ける」

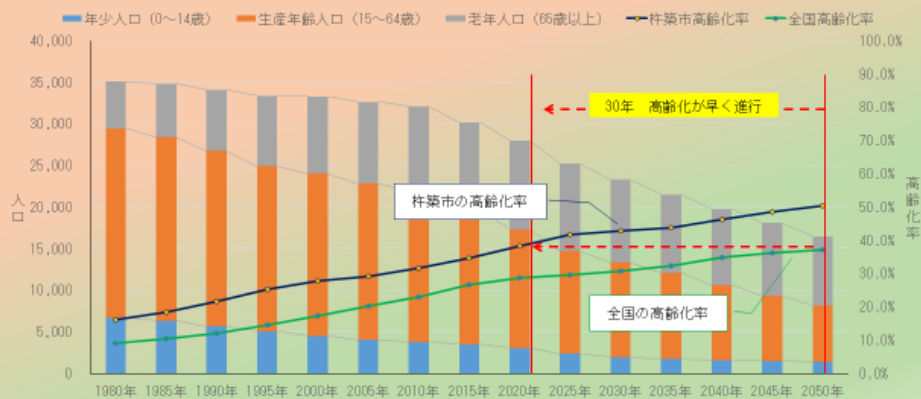
移住施策・・・杵築市に来てもらう取組み＝魅力アピール  
ウェブサイトでのPR、住宅取得の助成、  
移住フェアへの参加、移住体験の実施 など

定住施策・・・住みやすいまちづくり＝満足度アップ  
住まい、しごと、子育て、福祉、医療、  
教育、交通、買い物、QOLの充実 など



## 杵築市の人口推移(1980(S55)年～2050(R32)年)

【杵築市の人口推移（総人口）】



## 市民満足度調査のデータ分析

### ☆『住みやすいと思う理由』

- ・自然環境のよさ
- ・生活の便利さ
- ・人間関係



### ◆『住みにくいと思う理由』

- ・交通の便利さ（便利でない）
- ・働く場所の充実（充実していない）
- ・日常生活の便利さ（便利でない）
- ・まちの賑わい（賑わっていない）

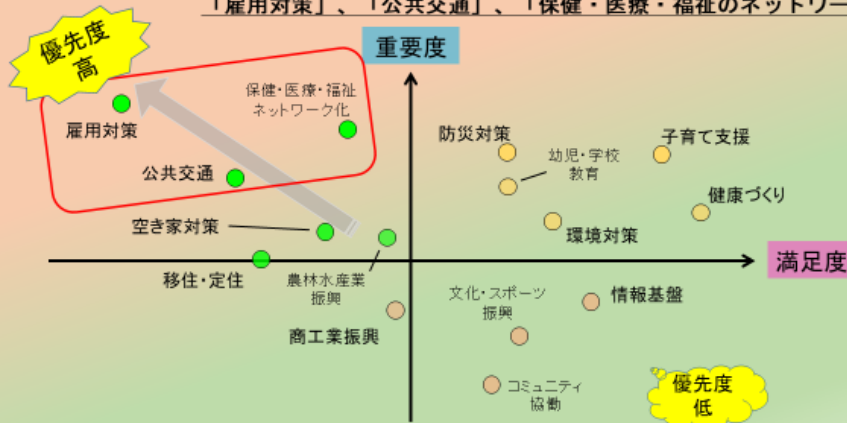


満足度・重要度・優先度から施策展開の必要あり



## 市民の満足度と施策の重要度

【市民アンケート結果より】…市民が考える優先度の高い政策は、「雇用対策」、「公共交通」、「保健・医療・福祉のネットワーク化」



## 住む…住み続ける

「住み続ける」には、まさに『魅力』・『安心』というコンテンツが必要！

杵築市での取組みは…

- 住まい … 空き家バンク活用、住宅取得・改修補助
- しごと … 企業誘致、創業支援助成、企業合同就職説明会の実施
- 地域 … 住民自治協議会の設置、地域コミュニティ活動推進、地域団体支援
- 子育て … 保育料・医療費無償化、妊娠・出産経済支援、小・中入学時経済支援
- 福祉 … 全世代支援センターまるっと（介護、子育て、障がい、困窮の悩み一括対応）の設置  
重層的支援体制整備（相談支援・アウトリーチ支援・参加支援）
- 健康 … 健幸都市の実現に向けた取組み、きつみん体操の普及、ウォーキング推進
- 医療 … 医療・介護の連携強化、**病院通院支援**、医療DX、とりわけ、**医療Maasの推進**
- 教育 … 教育立市宣言、複式・少人数学級支援、特別支援、GIGAスクール構想
- 交通 … 公共交通（コミバス・乗合タクシーの運行、バス・タクシー事業者への支援）の維持
- 防災 … 防災士配置、防災訓練の実施、避難路整備、備蓄物資確保、防災教育



## 杵築市立山香病院の通院支援事業（通院困難者支援）の状況

病院資料

利用者内訳		
登録者数	299名	
独り暮らし又は高齢者世帯	209名(69.9%)	
運転免許無し	248名(82.9%)	
年度別総数	利用者数	運行便数
R4(2021)年度	1,097	570
R5(2022)年度	2,072	1,132
R6(2023)年度 (4月～1月)	2,043	1,275



## 杵築市立山香病院のオンライン診療車（医療MaaS）の導入

病院資料

医療MaaS（Mobility as a Service）の導入 ※ MaaSとは、モビリティ（自動車等）で行うサービスのこと

杵築市と連携し、より高度なオンライン診療と予防対策が行える医療モビリティサービスの導入を令和6年度から導入を行う。

衛星通信  
(スターリンク)



通信状況の悪いところでも  
高精細な動画通信などを  
可能にする



R5.10月 杵築市合同視察先  
熊本県八代市の車両

看護師（診療看護師）が同乗



高度なオンライン診療と  
予防対策が可能



ポータブル  
エコー



新しいたため式  
採血機



携帯型聴診器



パルスオキシメーター  
(血酸素飽和度/脈拍)



血圧測定器  
(血液検査)



分検監視装置  
(給死心拍計)

山香病院がワンチームで支援



医師



作業療法士 理学療法士



ケアマネ 介護士 薬剤師 栄養士



## 求められる取組→→→杵築市の目指すべき姿

- 全世代
  - ・災害への備え
  - ・良好な自然環境、住環境の維持
  - ・情報化社会への対応
- 若い世代
  - ・経済的安定
  - ・子育て、教育の充実
- 高齢世代
  - ・移動手段の確保
  - ・健康の維持
  - ・福祉、医療体制の充実



安心して住める  
住み続けられる

- ☆若者が帰ってきたいと思うまち
- ☆歳をとっても生き甲斐があるまち
- ☆世代を超えてコミュニティがあるまち
- ☆シニア世代の能力を活用できるまち
- ☆ビジネスチャンスのあるまち

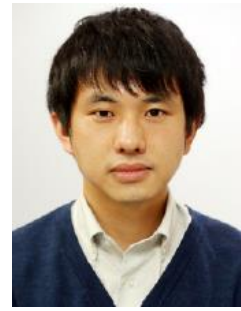


きつみん

## 「移住とまちの文脈 ー広島・島根からー」

ライター（元中国新聞社記者）

たなか けんたろう  
田中 謙太郎



日本における地方移住は、人口減少や首都圏一極集中を是正するため、近年ますます公共政策との結び付きが強いものになっています。特に2014年の地方消滅論の発表、その後の国家主導による地方創生の政策展開は、各自治体を人口の奪い合い競争へと駆り立てました。新型コロナウイルス禍によるテレワークの普及で、定住を条件としない暮らしも促されていますが、基本的に人口の社会増が政策の主眼となる状況が続いています。

しかし実際の地域に目を向けてみると、移住にかかわる興味深い現象が起きているのは、そもそも人口の社会増が難しい中小都市や農村部、島嶼部であることが少なくありません。そうした地域は、単に近年のトレンドを受けて移住政策を強化したのではなく、それ以前から官民でローカルな社会課題に対処する実践を積み重ねています。ローカルな試行錯誤の蓄積が、ナショナル、あるいはグローバルな社会の変化と絡み合っただけで新たな動きを引き起こし、結果的に移住先としての魅力を高めているのです。もちろん、移住・定住政策を充実させること自体は良いことです。しかしより長い時間軸で、より多様な空間変化のプロセスを観察すると、従来別の目的で始まったことから意図せざる結果が積み上げられ、また異なる目的に繋がっていくという連鎖的な現象が見えてきます。

今回ご報告させて頂く広島県尾道市と島根県雲南市の事例は、課題の現れ方や対処の仕方は異なりますが、どちらも自分たちの暮らしをより良く（面白く）しようとする市民たちの活動や、地域の価値を高めようとする行政や民間資本の動きが、観光立国や地方創生を巡る社会の大きな力と結びつき、移住の連鎖を引き起こしています。それは特定のキーパーソンの力量、あるいは代表的な計画や戦略の成果だけで説明できるものではないでしょう。

大切なのは、それぞれのまちが持っている「文脈=context」です。人口減少や高齢化という同じ課題に直面する地方の中でも、地理的な立地、産業の動態、住宅や商業インフラの状況、住民コミュニティの有り様、そしてそれらの要素がどのような歴史を辿って変化してきたかで、解決のアプローチは全く異なっています。

地域づくりを考える時には、モデルケースや万能な計画を追い求めてしまいがちです。しかし現代のような不確実性に満ちた時代では、むしろ地域の姿は思い通りにならないことを前提に置いた方が、上手くいかないときの軌道修正も図りやすいはず。医療福祉分野でも日常レベルでは、課題に対処する実践が、住民の方々や専門機関によって既に始まっていると思います。大切なのは、そうした実践がどのような人や組織の関係性で成り立っているかです。関係性はまちの文脈を反映しています。文脈を見つめ直し、小さな実践やそれを支える関係性を後押ししていくことで、結果的に持続可能な地域が作りだされていくのではないのでしょうか。

### 【プロフィール】

現所属：神戸大学大学院人間発達環境学研究科修士課程

略歴：1993年長崎県佐世保市生まれ。2016年中国新聞社入社、広島本社勤務を経て尾道支局で地域コミュニティや移住、観光の取材に携わる。再び本社で医療福祉分野を担当し、2023年退社。大学院での研究と並行しライター活動をしている。

<協賛>



快環創造

ビル総合管理・リフォーム・消防設備管理

# 旭環境管理株式会社

代表取締役 梶原 泰雄

本社：〒874-0921 大分県別府市富士見町10番20号

TEL：0977-21-2145 FAX：0977-21-2164

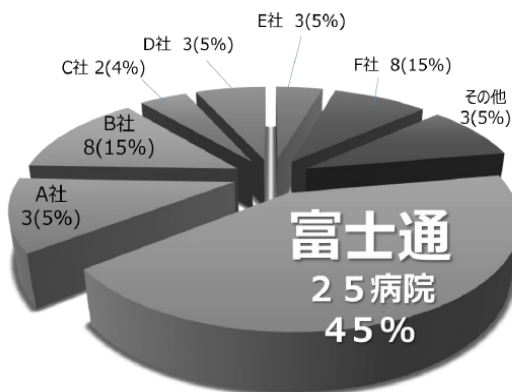
大分支店：〒870-0916 大分県大分市高松東3-5-7

TEL：097-551-7272 FAX：097-551-8787

株式会社 エム・オー・エム・テクノロジー

人と情報と技術の融合  
MOM FUJITSU  
Technology パートナー

大分県県内電子カルテシステムご採用実績



大分県  
導入実績 NO.1

電子カルテシステムを  
ご導入・検討される際は、  
是非、弊社にご連絡下さい。

株式会社エム・オー・エム・テクノロジー 大分営業所

■大分営業所 〒870-0047 大分市東春日町17番58号 富士通株式会社Oita Hub TEL：097-535-1077

■担当営業：曾我 丞衆 E-mail：soga-johshu@momt.co.jp

【その他事業所】 ■本社・東日本支社／西日本支社／熊本営業所 (URL：<https://www.momt.co.jp/>)



**地域医療に  
貢献する！**

医療用ガス/標準ガス/医療機器/配管工事/保守点検



**高圧ガス工業株式会社**  
大分工場

〒870-0138 大分市原川2丁目2番27号  
TEL 097-558-5890 FAX 097-551-2021

# 株式会社 ツインデック


代表取締役

**松 井 弘**

本 社 〒870-0943 大分市大字片島 55 番地の 1  
TEL (097) 568-3033 FAX 568-3022

サービス部 〒870-0942 大分市大字羽田栗ノ木 565-3

熊本営業部 〒861-5523 熊本市北区徳王一丁目 7 番 8 号  
TEL (096) 312-5520 FAX 312-5521  
E-mail: twindec@mms.bbiq.jp



# 医療・福祉業界に特化した 人材総合サービスをご提供

請負 | 派遣 | 人材紹介 (医療事務・クラーク・看護助手、等)

人材に関するお問合せ

私たちは、ワタキューグループの医療人材総合サービス会社です。

株式会社 **メディカル・プラネット** 大分営業所



(TEL) 097-547-8993 (FAX) 097-547-9594

(有料職業紹介事業) 13-ユ-040347

〒870-0034 大分県大分市都町1丁目2-1 大分中央通りビル4階B号室

(労働者派遣事業) 派 13-040497

沖電気工業(株) 特約店

## 株式会社 山田商会

代表取締役 山本 拓史

ICT(情報通信技術)活用で新たな価値を創造する企業

情報通信(電話通信設備・ネットワーク)

ドキュメント事業(複合機・IT 機器)

セキュリティ事業(医療、福祉緊急通報・消防設備・画像監視)

本 社 福岡県北九州市小倉北区萩崎町 12-23

中津支店 大分県中津市万田 48-1

TEL 0979-22-4732